

地域おこし協力隊の現場を訪ねて

奥出雲の「リコピン王子」 vol.1



今回ご紹介するのは、昨年10月から奥出雲農園で農業応援研修員として、トマト栽培に従事している長本寛司隊員（徳島県出身）です。徳島でもトマト栽培の経験がある長本隊員は、来てまだ5ヶ月ですが若い仲間には指示を出すほど頼りにされる存在として、現場に溶け込んでいるように見えました。

午前中は数ある大規模なハウスの中でトマトの管理作業。トマトが植わっているのは長く連なった専用の培地で、1レーンの長さが



手をかけるほどおいしい
トマトに育つ

70メートル、44レーン。線路のように敷かれたレーンに、かごを載せた作業用の荷台を走らせ、そこに座って少しずつ移

動しながら進めていきます。収穫しやすいように次々と葉を切り取っていくと、赤くなったトマトの実が顔を出してきれいに並びました。

午後からは新しい培地に苗を植える定植。「やったことがないとイメージがわからないじゃないですか。」と、初めて経験する若い仲間には具体的な指示を出して、確認しながら一緒に作業します。

「トマトは性に合っていると思うんですよね。」と、落ち着いた口調の長本隊員は、農薬管理などの資格も取っ
ていこうと考えています。奥出雲での暮らしを尋ねると、「空気がきれいだし、夏が涼しいですね。」と。言葉数は決して多くない、もくもくと仕事をしながらも若い仲間を思う姿が印象的でした。



リコピン
王子
ながもと ひろし
長本寛司隊員

取材:坪倉(地域おこし協力隊・定住コーディネーター)